



1_「一時避難訓練」。隣近所の人たちと声を掛け合う参加者 2_「煙中通過訓練」。校庭に設置した煙中体験ハウスを通り煙の怖さを体験 3_「救急応急処理訓練」。応急担架の作成方法や応急処置の方法を学ぶ 4_「初期消火訓練」。消火器とバケツリレーで消火を体験



東日本大震災の教訓から、より実践的な訓練と備えを！

平成25年度白石市総合防災訓練を実施

自主防災組織、各自治会などとの連携による初動体制の強化を目指し、重点地区以外のすべての指定避難所においても「避難・安否確認訓練」や「避難所開設・運営訓練」などを実施している。

本年度は、各指定避難所ごとに避難する自治会を指定。避難指定自治会の皆さんや、指定避難所となっている小中学校の教職員など施設を管理する皆さんと、訓練前に「初動マニュアル」の内容と訓練スケジュールについて話し合いを行い今回の訓練に臨んだ。

訓練には、メイン会場の小原小中学校や各指定避難所などに2,500人を超える市民の皆さんなどが参加。真剣な表情で訓練に臨み、関心の高さがうかがえた。また、市民の皆さんによる訓練に加え、陸上自衛隊による食糧配給訓練や、東北電力株式会社白石営業所による停電復旧訓練、東日本電信電話株式会社仙南営業支店による特設公衆電話設置訓練なども行われた。

今回の訓練では、さまざまな課題も寄せられた。市では、いざという時、対応できる防災体制の構築を目指し、市民の皆さんと行政が一体となって防災に取組むため、今後の訓練に生かしたいと考えている。

繰り返しの訓練が重要

塩倉自主防災会長 佐久間 務さん

今回の訓練は、本番さながらの訓練で自分たちの命や財産を守ること、互いに助け合うことが大切だということを感じさせてくれました。

地震や火災といった災害が多いので、いざという時に備え、こうした本番さながらの訓練を繰り返すことが重要。訓練の反省を踏まえ、これからの活動に活かしたいと思います。



地域の人を知ることによって支え合う

赤井畑自主防災会長 赤井畑柳二さん

今回の訓練で具体的な避難所開設の手順や応急処理などを学び、参加した人たちの意識がこれまで以上に高まったのではないかと思います。訓練に当たり、当自治会では、いざという時に備え、独居老人や要介護者の救出を行うための役割分担を決め、「誰が安否を確認するか」、「どういう経路で搬出するか」などを決めました。また、留守にすることが多い世帯のために、全戸の第一通報先を確認。連絡先を全戸配布し、有事に備えることにしました。こうした自治会単位のつながりを持つことが、地域での減災につながるのではないのでしょうか。

